

令和5年度(令和4年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	33-2	
PDCA	主要事業名		図書館資料整備事業		部課名		教育部図書館			担当	竹内 由香	
											内線	23-7171
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進											
	全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 4 年度 全体事業費等： 31,749 千円											
	会計		一般会計			歳出科目： 09.05.03.02.02						
	事業概要等	利用者のニーズに合った図書資料を幅広く整備するとともに、地域情報の集約場所としての機能を維持し、魅力ある図書館づくりを行います。また、子ども読書活動推進計画に基づき、児童書の事業概要： 充実を図ります。 障がいのある方や高齢者、外国籍の市民等にも配慮した資料や、電子書籍など、読書の機会を拡充する資料整備にも努めます。										
		事業目的： 幅広い年齢層の利用者にとっての魅力ある資料を充実させ情報提供に努めることで、市民の学びを支えます。										
		事業内容： 幅広い層のニーズにこたえられるよう、司書が内容を確認し、一般図書をはじめ児童図書、視聴覚資料、新聞、電子書籍等様々な資料を購入します。										
		問題点・課題等： 図書館利用者数、貸出点数が減少しています。										
	予算額	主要事業とする理由										
	31,749 千円	公共図書館として、利用者のニーズにあった幅広い資料を整備する必要があるため。										
	財源内訳											
	市費	得られる成果										
	31,675 千円	より多くの市民の学びの支えとなります。										
	国費											
0 千円	目標値や目指すべき状態				令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位				
県費	0 千円	市民一人当たりの貸出点数		実績値	6.0	7.2	—	冊				
				目標値	8.5	8.5	7.5	冊				
その他	74 千円			実績値								
				目標値								
				実績値								
				目標値								
D 実績得られた成果と	決算額	得られた成果										
	32,212 千円	貸出冊数は、全国の図書館の動向と同じく減少したが、コロナ禍により減少していた来館者数や事業参加者数は回復しつつあり、市民への学びの機会や情報の提供を実施できている。特に、市内小中学校への資料提供（巡回文庫）の冊数、市内で活動する団体への貸出点数は増加している。										
		成果指標						令和4年度	単位			
	市民一人当たりの貸出点数				実績値	7.0	冊					
					目標値	7.5	冊					
C 課題の整理	事業の評価・課題	D										
		より分かりやすく本を探すための手段として、一分野の資料の分類シールを変更し、ピンポイントで本を探しやすくしサービス向上に努めた。第二次半田市子ども読書活動推進計画を進めるため、新刊購入の他に、調べ学習に役立つ本や、古くなった良書の買い替えに努めるなど、児童図書のより一層の充実を心掛けた。図書館の貸出冊数の減少は全国的にみられる事象となっており、当市でも例外ではなく、貸出点数が減少している。今後、貸出点数を如何に増やしていくかが課題である。										
A 課題後の決方向性	今後の事業の方向性	改善推進										
		利用者のニーズに合った図書資料の整備に加え、効率良く本を予約・貸出できるよう電算システムの改善、電子書籍の利用拡大を図っていく必要がある。また、紙媒体での図書資料の提供の他、貴重資料のデジタル化、公開の準備を進め、時代に合わせた資料・情報提供ができるよう、知の情報基地としての機能の維持・拡張を行っていく。情報難民を生じさせないよう、あらゆる年齢層・国籍や障害の有無に影響されず、読書の機会を提供できるよう、他課とも連携しながら利用の促進を図っていく。										
	観点別評価	必要性		有効性				効率性				
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献		中程度		⑦コスト削減		ない		
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地		ある		⑧受益者負担適正化余地				
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無		ない				ない		